第 20 期、第 21 期に向けて

第 14 期（2015 年）より支部長をお引き受けし、あっという間に６年が過ぎました。18 期・19 期は Covid19 が猛威をふるい、世界のあらゆる形を変えました。人とのふれあいを躊躇するようになり、共食を避けるようになりました。また、多人数が密集するイベントはことごとく中止され、学術総会も開催できなくなり、栄養学の実践は窮地に追い込まれました。第９回東海支部会学術総会は延期（中止）され、第 67 回日本栄養改善学会学術総会も誌上開催に急遽変更されました。しかしながら、オンラインの需要が増え、日本のネット環境は勢いよく整いました。おかげて、第 10 回東海支部会学術総会はオンラインで開催し、さらに第 11 回東海支部会学術総会はハイブリッドで開催し、多く会員に参加いただきました。会場では、以前の活気を感じました。大会長をはじめ、委員の多くの方のご協力があって、東海支部会は、活動を続けることができました。心より感謝申し上げます。２年経ってもまだ Covid19 は猛威を振るっておりますが、これからも東海支部会はウイルスに負けず、第 20 期・第 21 期も活発に活動を続けていけるように、支部会の皆様からのご指導ご鞭撻をいただきながら、精一杯努めてまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

現在、日本栄養改善学会の会員は減少し、4,428 名（2022.5.10 現在）です。東海支部会の会員数も減っており、私が支部長を任命された時には 700 名近くおられましたが、現在は 485 名になってしまいました。近年、栄養関連のさまざまな学会や研究会が増え、栄養管理実務者はそれぞれの分野の専門性を高めるためや資格取得のために多くの学会に所属されます。そのために、日本栄養改善学会のように広く多くの分野が混在する学会は敬遠されてしまうことも会員減少の原因のひとつと思っています。しかしながら、栄養学を大きく捉え、さまざまな分野との関連を考えることこそ栄養学の実践には大切な観点です。これを実感できるのが栄養改善学会の良いところだと理解していただけるように、多くの方にアピールしていきたいと思っていますし、また皆様にもアピールしていただきたいと思います。日本栄養改善学会のあるべき姿をぶらさずに、本筋を突き進むことが減少を食い止めることにつながると考えています。学会ホームページから「入会案内用のリーフレット」が新しくダウンロードできるようになりました。会員のみなさまにこれを利用して勧誘していただけると幸いです。

さらに、2017 年より、各支部では「実践栄養学研究セミナー」を開催することになり、現在は４つの支部が開催しています。東海支部会では、学会発表を目指して初年度から取り組み、新型コロナウイルス感染防止のために保留期間がありましたが、2022 年３月に第２クールも終了しました。スタッフの先生方、本当にありがとうございました。第 20 期から、また初級編から開催する予定です。是非、多くのかたに受講していただき、2023 年９月に愛知県で開催する第 70 回日本改善学会学術総会での発表を目指していただきたいと思います。

令和４年（2022 年）８月１日

日本栄養改善学会東海支部会
支部長　　塚原　丘美